

レジメン名

ABVD

出典

N Eng J Med 1992;327:1478

J Clin oncol 2003;21:607

J.Pharmaceut. Bio.Anal., 10:675-683(1992)^{※3}

実施部署区分

入院
 外来
 処置

対象疾患

ホジキンリンパ腫(進行期)

進行・再発
補助療法(術前・術後)
初発

投与減量の基準

その他			

投与中止の基準

WBC	3000/mm ³ 未満	ANC	1000/mm ³ 未満
PLT	5万/mm ³ 未満		
その他			

1クール期間 28日

総クール数 6-8クール

(次のクールまでの標準期間)

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度(時間)	投与日(d1、d8等)
ダカルバジン	375mg/m ²	AQ10mL/Vで溶解 輸液100mLに希釈 ^{※2}	30分	d1、15
ドキシソルピシン	25mg/m ²	輸液適量 計100mL	30分	d1、15
プレオマイシン(プレオ)	10mg/m ² (上限15mg)	輸液100mL	30分	d1、15
ピンブラスチン(エクザール)	6mg/m ² (上限10mg)	輸液100mL	30分	d1、15
※2 添付文書上、溶解液量の指定なし。出典 ^{※3} の報告では、溶解濃度が低いほど、経時的に発痛物質が生成するとのデータがある。メーカーDIに確認し、30分投与、生食100mLの投与例ありと。以上を踏まえ、田所Drと協議の結果、30分、生食100mL投与・投与順を1番目に変更とした。2022.4.21				

1日投与順 (経時的にプレメタキオン・ホストメタキオン、溶解液まで含む)
day1、15 ①アロキシ0.75mg+デキサート13.2mg+生食50mL(15-30min) ②ダカルバジン375mg/m ² +注射用水10mL/V+輸液100mL(30min) ^{※1} ※1 点滴経路全般を遮光 ③ドキシソルピシン25mg/m ² +輸液適量(30min) ④プレオ10mg/m ² +輸液100mL(30min) ⑤エクザール6mg/m ² +輸液100mL(30min) ⑥生食50mL(フラッシュ用)